エルヴィス・プレスリーとアメリカ

中　山　恵里子

エルヴィス・プレスリーはアメリカに多大な影響を与えた人物である。

1953年7月、エルヴィス・プレスリー18才の時に母親へ贈るためにレコードを作りにサン・スタジオを訪れた。ここで、エルヴィスの発掘者と言われているサム・フィリップと出会う。しかし、サム・フィリップの秘書マリオンが彼の才能を発見したと言う方が正しいだろう。彼女がいなければ今のロック界はこんな形にはなってなかったかもしれない。それと言うのはエルヴィス・プレスリーはロカビリー・ミュージックの発展にかなり影響しているからである。ロカビリー・ミュージックは、ロックとヒルビリーの融合である。ヒルビリー・ブギとは、40年代にアメリカ黒人がブギ・ウギのリズムとカントリー・ミュージックの組合せを試みたもので、あらゆるプロト・ロックとしてのカントリー志向の高いものである。アメリカ・カントリー・ミュージックの最初期のスタイルは英国諸島から人々によって発展し、主にアメリカ南部に定着した。これは物語をくり広げる歌やダンスがあり、結果から言えば、ジャズやブルーズドラムスやサクソフォンが一部のカントリー・スタイルに影響したものの、当時の多くのカントリー・パフォーマーはアメリカ黒人によって音楽との結合には抵抗を示していた。アメリカ白人は黒人音楽のブルーズやリズム＆ブルーズに関心をふくらませていたが、黒人音楽の方を買う物はほとんどいなかった。しかしエルヴィス・プレスリーの登場により、アメリカ白人の中へロカビリー・ミュージックが定着していったのである。エルヴィス・プレスリーの音楽には、黒人音楽の伝統、白人音楽の伝統のいずれにおいても直接的な前例のないものであった。

1977年8月16日、エルヴィス・プレスリーは42才の若さで無くなった。死因については諸説がある。この手の本は多数出版されている。エルヴィスの家の上空には何台ものテレビのヘリコプターが旋回し、アメリカ全土はエルヴィス一色となった。おびただしい数のファンがメンフェスへ巡礼の旅に出たことは言うまでもなく、大統領のジミー・カーターを初め、たくさんの著名人が彼の死を嘆いた。

エルヴィス・プレスリーはアメリカ白人、黒人に音楽を通して融合を働きかけ、それが世界へも影響を結果としておよぼしたと言っても過言ではないだろう。　　（指導教員　中村　敦志）